

## 岩手山の火山活動解説資料（平成30年1月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気など表面現象の状況（図1、図2-①、図3-①）

柏台に設置している監視カメラによる観測では、黒倉山山頂の噴気は10m以下で経過し、岩手山山頂と大地獄谷の噴気は確認されず、噴気活動は低調に経過しました。

#### ・ 地震や微動の発生状況（図2-②～④、図3-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。

#### ・ 地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

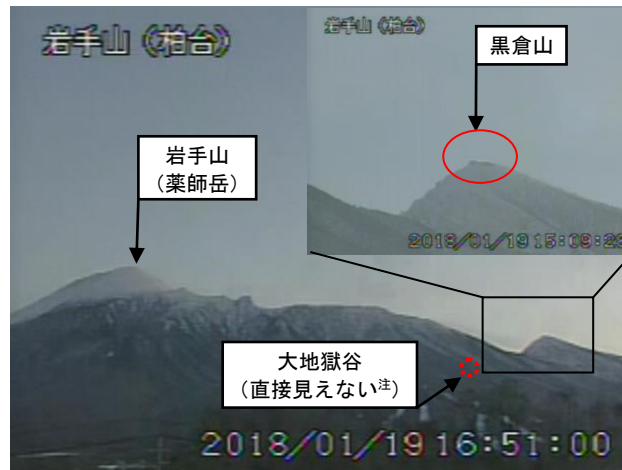


図1 岩手山 黒倉山の噴気の状況（1月19日）

- ・ 柏台（黒倉山山頂の北約8km）に設置している監視カメラの映像です。
  - ・ 赤丸で囲んだ部分が、黒倉山山頂の白色噴気で高さ10mです。
- 注）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに柏台監視カメラで観測されます。  
赤破線が大地獄谷の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年2月分）は平成30年3月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

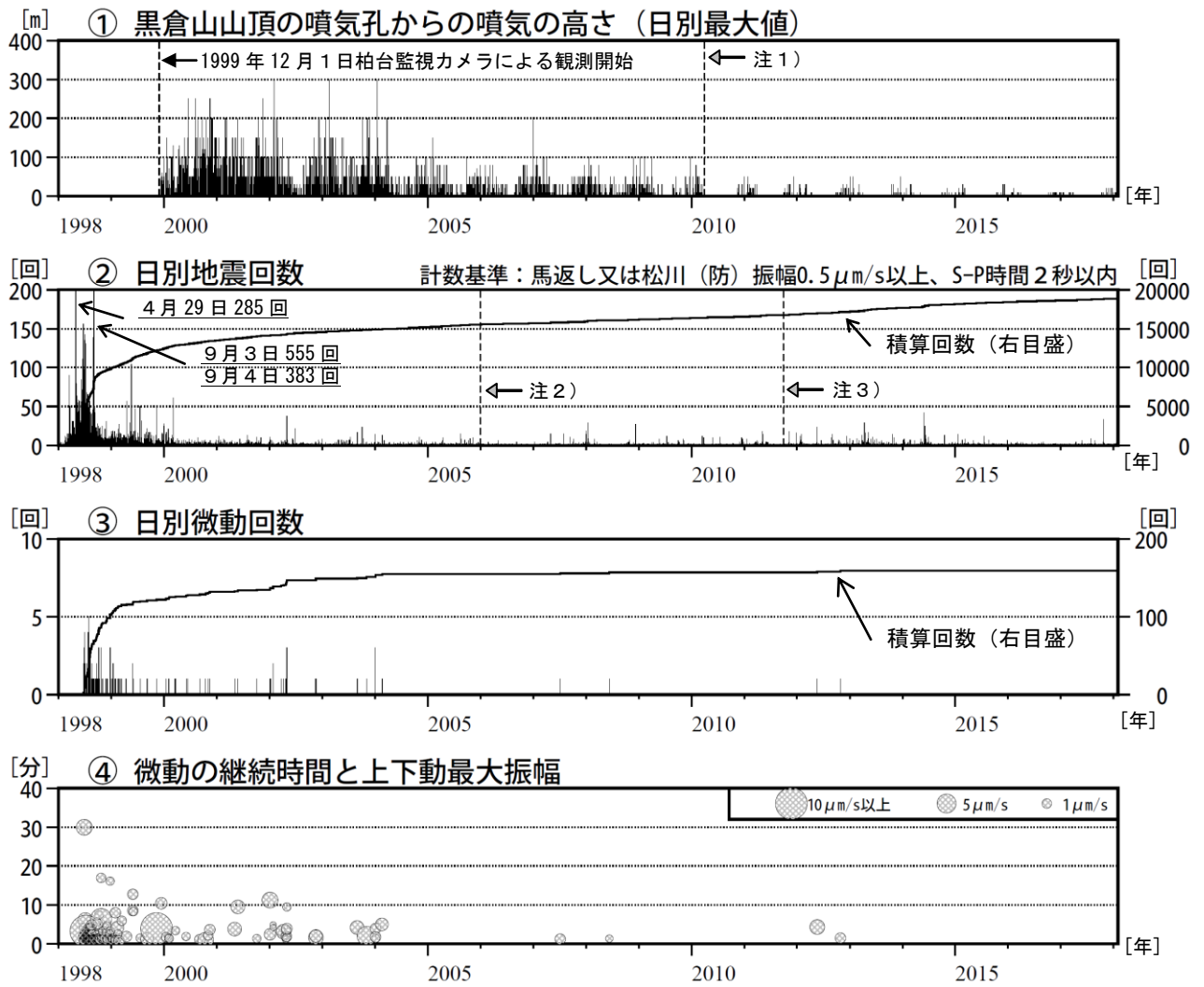


図2 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2018年1月）

- ・ ①注1) 2010年3月までは黒倉山のみを観測値を、2010年4月1日以降は岩手山全体の観測値を示しています。
- ・ ②～④基準観測点の変更は次のとおりです。
  - 観測開始 1998年1月1日～ 東北大学松川観測点
  - 注2) 2006年1月1日～ 焼切沢観測点
  - 注3) 2011年10月1日～ 馬返し観測点及び防災科学技術研究所松川観測点
- ・ ②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

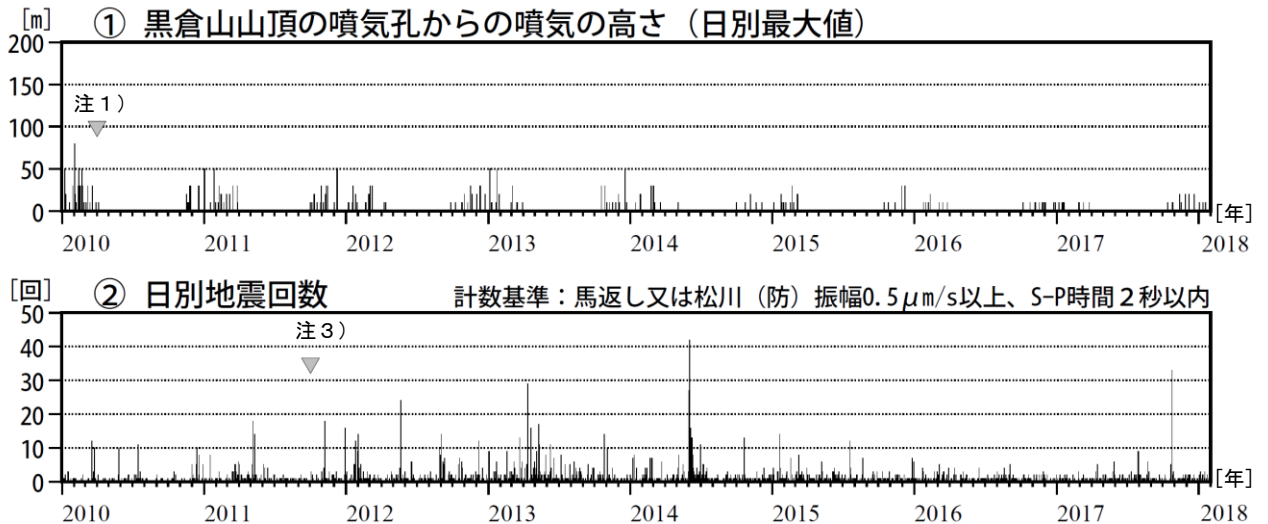


図3 岩手山 噴気の高さ及び日別地震回数（2010年1月～2018年1月）

・注1）及び注3）は図2に同じです。

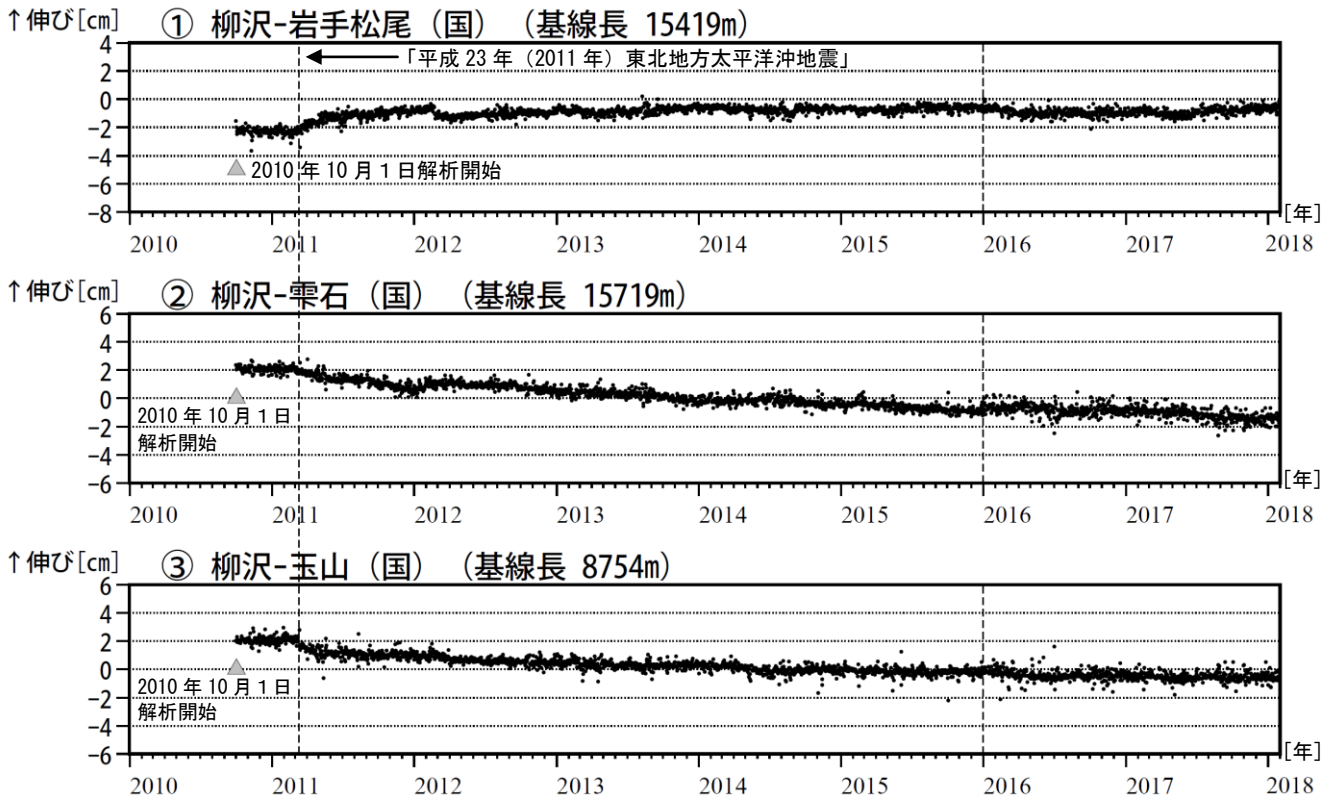


図4 岩手山 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図（2010年10月～2018年1月）

- ・「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～③は図6のGNSS基線①～③に対応しています。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- ・2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

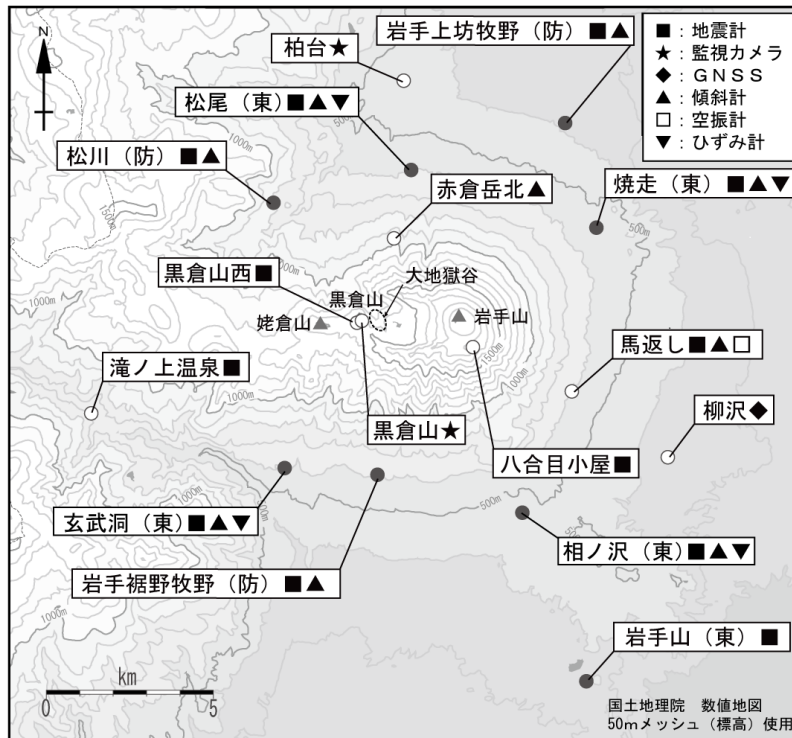


図5 岩手山 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東)：東北大学 (防)：防災科学技術研究所

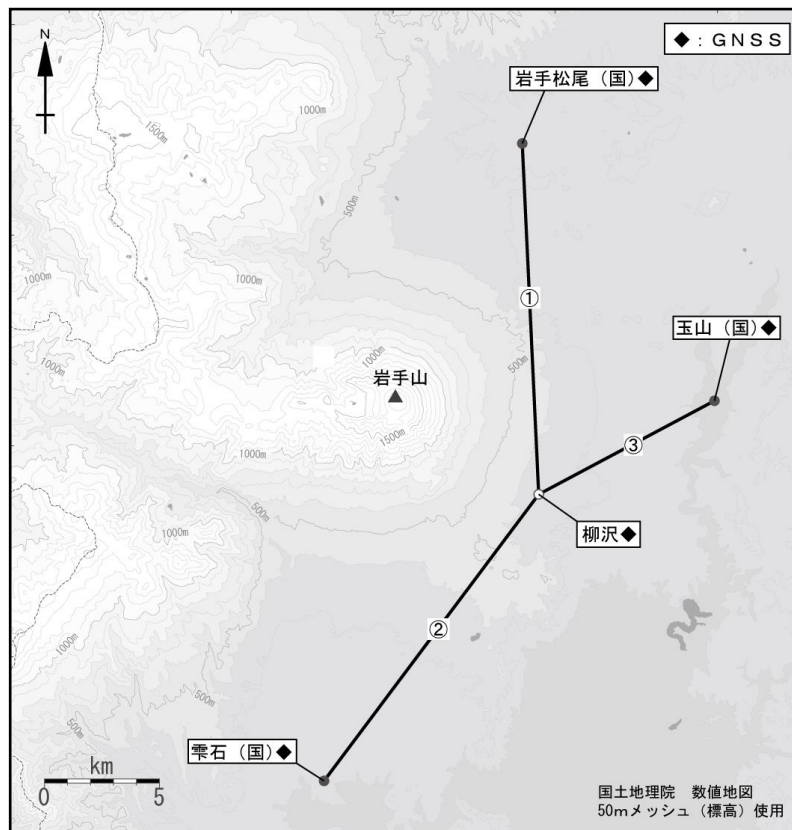


図6 岩手山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院